

組織的な若手研究者海外派遣事業 ベトナム派遣報告書

筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻(脳神経外科学)博士課程 3 年

中村和弘

私は大学院博士課程 1 年目より、大学院教育改革支援プログラム「個性とキャリアをつなぐ医科学教育ルネサンス」海外協力インターンシップのクリニカルリサーチコースにおける、発展途上国における医学教育開発プログラムに参加させていただいております。平成 21 年 2 月以来、2 回の訪越やベトナム人医師の日本への招聘等を通じて、ベトナムでの手術修行の可能性を調査・研究してきました結果、脳卒中外科医になるためのキャリアとしてチョーライ病院において手術修行が可能、と判断いたしました。

今回、組織的な若手研究者海外派遣事業の支援を頂きまして、平成 22 年 8 月 2 日から 9 月 27 日までの 2 ヶ月間、ベトナム社会主義国はホーチミンの下町にありますチョーライ病院で脳神経外科の手術研修をさせていただきましたので御報告させていただきます。

チョーライ病院で手洗い・見学させていただいた手術は、定時手術だけで脳腫瘍摘出術 56 件（髄膜腫 20 件、グリオーマ 5 件、聴神経腫瘍 12 件、髄芽腫 6 件、下垂体腺腫 3 件、頭蓋咽頭腫 2 件、巨大奇形腫 2 件、その他 epidermoid、lipomeningocoele など 6 件）、動脈瘤手術 13 件（テント上動脈瘤 7 件、テント下動脈瘤 6 件）、もやもや病のバイパス術 1 件、MVD 2 件、脊椎手術（ヘルニア、脊柱管狭窄、腫瘍、外傷整復固定など）10 件、などで、緊急・準緊急で行われた頭部外傷手術、クリッピング、膿瘍、脊椎外傷、ICP モニター、シャントなどを含めると、2 ヶ月間で 100 件を超えました。記録に残せなかった手術や一部だけ見学した手術を含めると 150 近くになります。

チョーライ病院の先生方は、劣悪な医療環境の中、高度の技術・知識・努力を持って最大限の手術をなさっています。巨大聴神経腫瘍におきましては、「モニターがあればもっと摘出できるのに」と合併症の可能性を最小限にしてガンマナイフに回しています。先の合っていないバイポーラ、切れないハサミを巧みに使用しながら、出血の処理も丁寧に行っています。器械出しの看護師さんも優秀で、私が顕微鏡を覗きながら右手を出すだけで 3 回に 2 回は欲しい器械を一発で渡してくれます。ちなみに、顕微鏡はルネサンス事業でチョーライ病院に導入したライカの最新型で、筑波大学大学院人間総合科学研究科の備品としてのステッカーが貼ってあります。

今回の研修で最も印象に残ったのは、5 年目以下のレジデントの先生たちの働きぶりです。年間 9,000 件の脳神経外科手術は 15 人ほどの彼らの働きで支えられています。術後管理を含む病棟業務、週 2 回以上の当直をこなしながら、可能な限りの時間を手術室で過ごし、開頭・閉頭・介助に代わる代わる参加しています。2 年目の先生が当たり前のよう左手に水を持ちながらマイクロのハサミを右手に構え、上級医が焼いた血管などを顕微鏡の下で手際よく切っていきます。当直でないレジデントや大学病院のレジデントも夜中に手術室に

現れ、手術室廊下のストレッチャーの上で仮眠を取りながら手術介助に入ります。多忙の中、英語の手術書を読み漁り、教授の命令でフランスやシンガポールに短期に研修に行き、技術・知識の習得も定期的に行っています。

残念ながら今回私はオペレーターとして手術を任せていただけませんでした。研修の最後に **certification** の書類に頂いた **Phuong** 准教授のコメントは、**Good! But you will have to exert yourself and to promote your ability more.** でした。もっと頑張らなくてはいけないと思いました。今回させていただいた貴重な経験は、日本風にアレンジして今後の手術に活かしていきたいと思います。今度は、手術を依頼されてベトナムに呼んでいただけるように日本で研鑽を積んでいきたいと思います。

日本とベトナムの脳神経外科の大きな相違は、ベトナムでは脳神経外科医の仕事が手術に特化しているところにあります。医療関連機器の進歩は日進月歩ですが、開頭方法や病巣へのアプローチ、顕微鏡手術手技は先人達の努力の結果、ほぼ確立されており、基本的には万国共通と考えられます。日本では、脳神経外科の仕事は手術だけでなく、手術適応のない脳疾患全般に対する診療やリハビリテーションなど多岐にわたり、最近の医療事情もあって、脳神経外科一人当たりの手術件数が減少しつつあり、日本脳神経外科学会でも手術技術の継承や手術教育が問題となっています。今回の研修では、11 年目の脳神経外科医として、短期間に効率的に手術修行ができました。今後は、日本の最新脳神経外科医療情報の提供や、臨床研究への協力により、ベトナムの脳神経外科医療の発展にも寄与できると考えられ、チョーライ病院脳神経外科との交流を通じて、お互いの切磋琢磨が可能であると確信いたしました。



病院内 ①



病院内 ②